



ニュースリリース

2026 年 8 月 25 日

98%が自然災害への備えは「重要」と回答。

オレンジページ「ほぼ 1000 人にききました」が調査結果を発表。

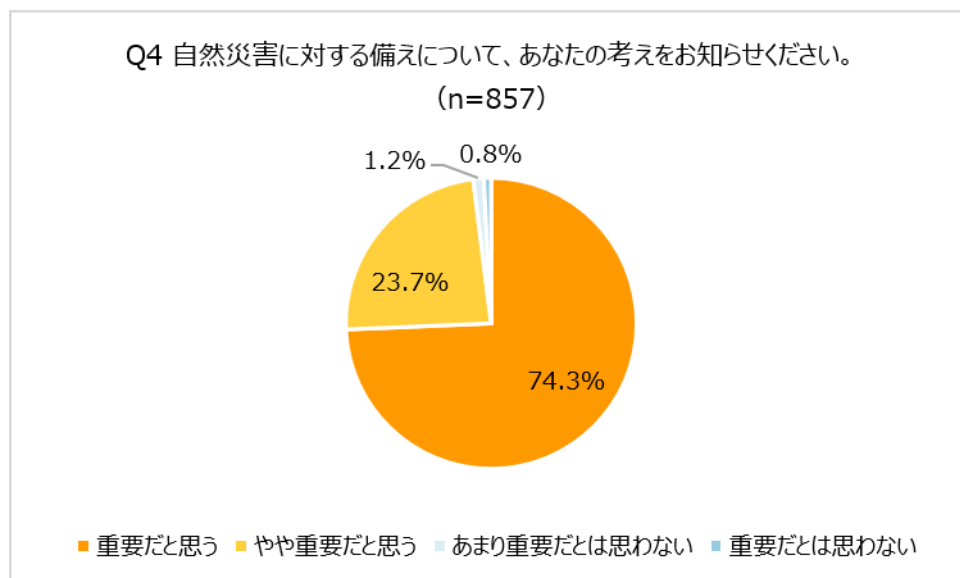
くらしにまつわる旬の話題やちょっとしたトピックをオレンジページが読者アンケートでリサーチする、「ほぼ 1000 人にききました」。9 月 1 日の防災の日を前に、今回は災害対策について、国内在住の 20 歳以上の女性 857 人を対象とした調査を 2026 年 6 月に実施しました。今年 5 月から運用が開始された「新たな防災気象情報」の認知度や、家庭での備えなどについて聞きました。

【ダイジェスト】

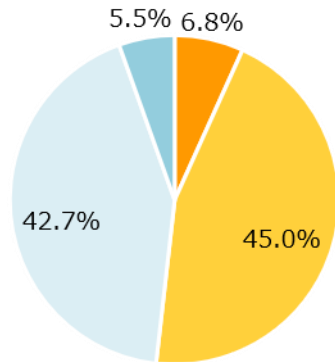
「新たな防災気象情報」の内容を理解している人は 12.8%

8 割以上がハザードマップ確認も理解度は 36.2%

十分な食品・水の家庭備蓄がない人が半数超

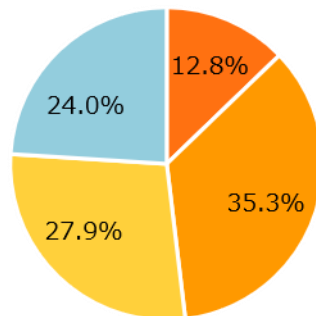


Q5 あなたご自身の防災意識について教えてください。(n=857)



■ 高いほうだ ■ どちらかといえば高いほうだ ■ どちらかといえば低いほうだ ■ 低いほうだ

Q10 あなたは、2026年5月29日から新たに運用が開始された「新たな防災気象情報」をご存じですか？(n=857)



■ 内容まで詳しく知っている ■ 言葉自体は知っている
■ なんとなく知っている気がする ■ 初めて知った

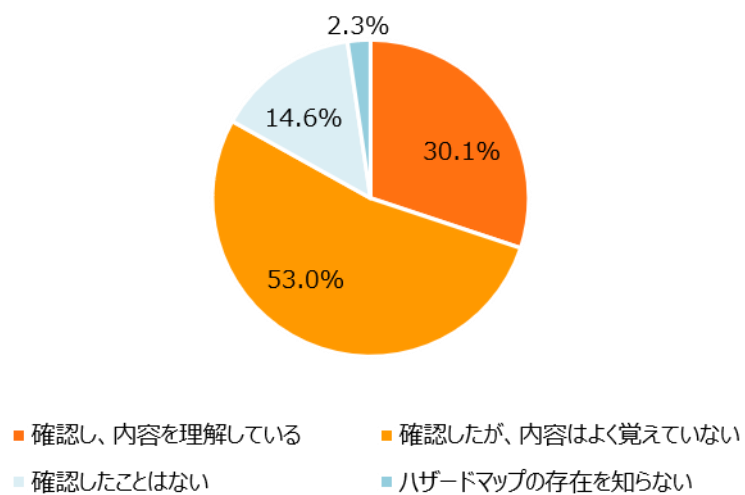
「新たな防災気象情報」の内容を理解している人は 12.8%

自然災害に対する備えが重要であると答えた人は 98.0%。一方で自分自身の防災意識が高いと思う人は 51.8%でした。ふだん実践している自然災害への備えは、最多が「食料や水などの備蓄」で 70.4%（前年比+4.8pt）。次いで「防災グッズや非常持ち出し品の備え」48.3%（前年比+7.0pt）、「防災情報の収集（アプリやインターネット、テレビのニュースなど）」38.9%（前年比+9.8pt）でした。

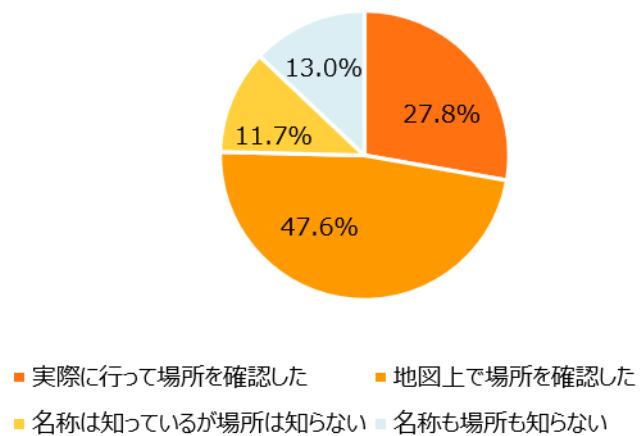
2026 年 5 月 29 日から運用が始まった「新たな防災気象情報」については、内容まで詳しく知ってい

る人は 12.8%。それに対し、今回のアンケートで存在を初めて知ったという人は 24.0%でした。

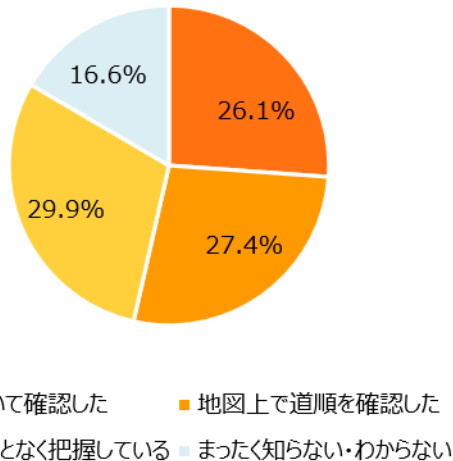
Q13 お住まいの地域のハザードマップ（災害予測地図・防災マップ）を確認したことはありますか？（n=857）



Q15 自宅の周辺の行政が指定した避難場所を把握していますか？（n=857）



Q16 自宅の周辺の行政が指定した避難場所への経路を把握していますか？
(n=857)

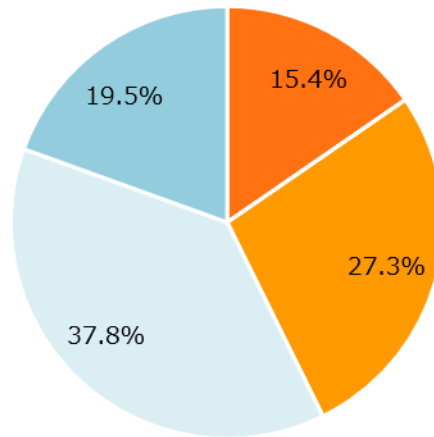


8 割以上がハザードマップ確認も理解度は 36.2%

各警戒レベルでとるべき行動を正しく把握している人の割合は、警戒レベル 1 は 55.0%、警戒レベル 2 は 44.3%、警戒レベル 3 は 62.0%、警戒レベル 4 は 56.7%、警戒レベル 5 は 63.0%でした。

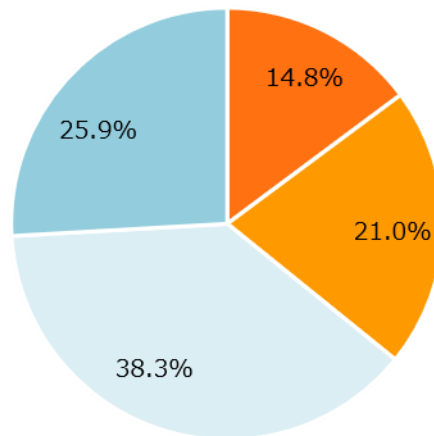
自分が住んでいる地域のハザードマップを確認したことがある人の割合は 83.1%で、前年から 3 ポイントダウン。確認したことがある人のうち、「内容を理解している」は 36.2%だったのに対し、「内容はよく覚えていない」が 63.8%に上りました。また、行政が指定した自宅周辺の避難場所の場所を把握している人は 75.4%でしたが、避難場所への経路を把握している人は 53.6%にとどまりました。

Q26 災害発生時の備えとして、「最低3日分～1週間分×人数分の食品の家庭備蓄」が望ましいとされています。現在あなたの家には「最低3日分～1週間分×人数分の食品の家庭備蓄」があると思いますか？（n=857）

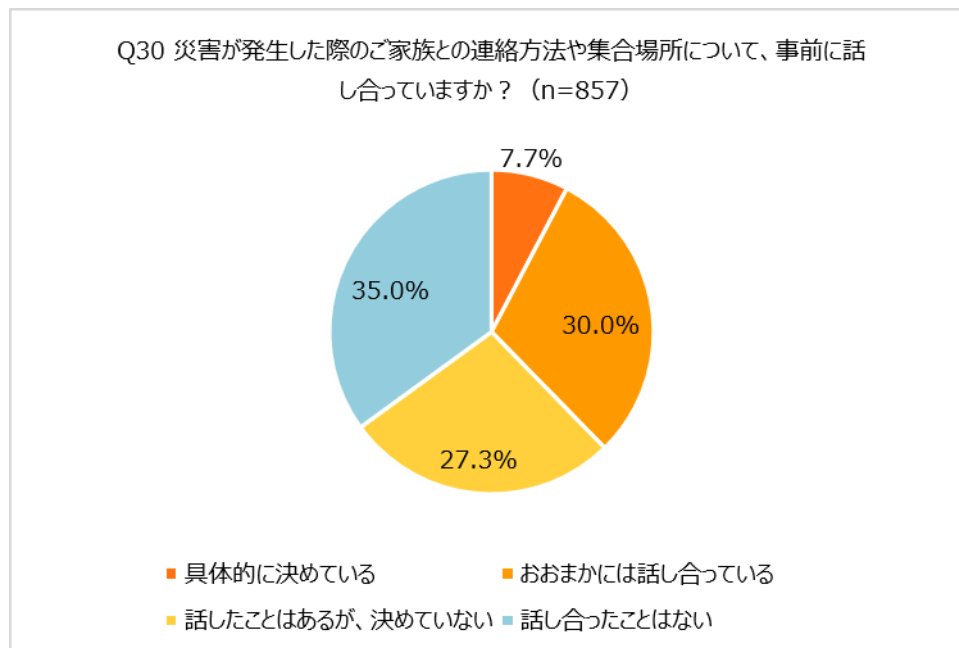


■ ある ■ おそらくある ■ おそらく足りない ■ 足りない

Q27 災害発生時には、飲料用と調理用だけで一人当たり1日3リットルの水が必要といわれています。現在あなたの家には「最低3日分～1週間分×人数分の水の家庭備蓄」があると思いますか？（n=857）



■ ある ■ おそらくある ■ おそらく足りない ■ 足りない



十分な食品・水の家庭備蓄がない人が半数超

ふだんから災害時を意識して自宅に食品を常備している人は 74.6%に上りましたが、災害時の備えとして望ましいとされる「最低 3 日分～1 週間分×人数分」の食品の家庭備蓄がある人は 42.7%にとどまりました。飲料用・調理用の水についてはさらにその割合が少なく、望ましいとされる「最低 3 日分～1 週間分×人数分」の水の家庭備蓄が自宅にあるという人は 35.8%でした。

災害発生時の家族との連絡方法や集合場所について、話し合ったことがある人は 65.0%で、昨年より 13.1 ポイントダウン。また、離れて暮らす家族の防災対策をしている人はわずか 15.4%でした。コメントでは、「離れて暮らす母と定期的に連絡をとり、情報共有や声かけをしています。」（20 代・パー子）や、「家族に防災セットを贈った。同じセットを持っているので、自分の分の非常食の賞味期限が切れるタイミングで同じものを送りました。」（30 代・いおりん）などの対策がみられました。

2026 年 6 月に実施した今回の調査では、多くの人が自然災害への備えが重要だと感じている一方で、ハザードマップや避難場所・経路の確認や、食品と水の家庭備蓄など、災害対策が十分でない現状が明らかになりました。

アンケート概要

- 調査対象：オレンジページメンバーズ・国内在住の 20 歳以上の女性（有効回答数 857 人）
- 調査方法：インターネット調査

●調査期間：2026 年 6 月 5 日～6 月 14 日

●「ほぼ 1000 人にききました」について

読者モニター「オレンジページメンバーズ」には、さまざまな暮らし情報・暮らし体験によってはぐくまれた生活感度の高い読者が数多く所属しています。そんなメンバーたちの声を集めて、「くらしのリアル」な数字、リアルな声を集めたのが「ほぼ 1000 人にききました」企画です。WEB 上でのアンケート調査、座談会など、ご相談に応じて展開いたします。

●『オレンジページ』について

失敗なくおいしく作れるレシピ情報が支持され、2025 年に創刊 40 周年を迎えた生活情報誌。30～40 代の主婦を中心に幅広い読者層を誇ります。

【この資料に関するお問い合わせ】

株式会社オレンジページ

次のくらしデザイン部

kurashi@orangepage.co.jp